

刊夕日六廿月一十



定価一冊五銭 月刊五拾五銭 郵費五銭  
廣告料五銭 十二字一頁五拾五銭  
日曜祭日の翌日休刊  
編集長 藤野野矢 編輯 川崎文  
発行所 常警日新聞社 電話 六三〇  
印刷所 常警日新聞社 印刷 株式会社



必至

(一)

生者必滅といふ事と必至  
滅度といふ事は語呂は似  
てゐるが内容は異なる、生者  
必滅といふことは生きてゐ  
るものは必ず死ぬると太鼓  
印を捺したのであり、必至  
滅度とは滅したるもの必ず  
彼岸に渡るの義である、度  
といふに深義あり、度とは  
成佛を意味する、左れば生  
あるものは乞食非人が必滅  
であるばかりでなく、大臣  
富豪も亦た必滅であるが、  
滅したるもの必ず成佛する  
とは限らず中には三途の川  
邊で迷ひ子となつて浮ばれ  
ぬ連中もあるので不成は  
只今現身の信不信による、  
輕節となるのは輕に限られ  
てゐるので生前の縛は死し

減度の願  
眞繼雲山

て輕節とは成らぬやうに生  
前に信なきものが死して救  
はれる道理がない。  
當人の行く先はまづその  
邊としておいて跡には何が  
残るぞといふに「たゞ白骨  
のみぞ残り」とある、こ  
れほど金銀財寶何でも御座  
れの便利な世の中であるか

ノート

人造絹糸  
の洗濯法  
は布海苔

を水につけておき、その  
汁を袋でこしたものに  
つけ、もまないでた、押し  
つけるやうに洗ひ、後は  
しぼらずに干します

高月會句抄

薦

(四)

落日射す山莊一點萬紅葉  
垣間見ゆ杉生の丘の萬紅葉  
濠めくる城壁の壁や萬赤き  
探り來し遺跡の松や萬紅葉  
雲をつく城壁腹這ふ萬紅葉

石水 石水  
秀峰 秀峰  
湖晴 湖晴

笑話

「あの男は何だ  
つてあゝニヤニ  
ヤしてゐるんだ  
ね」

「馬を安く買ったからさ」  
「で、もう一人嬉しうな  
顔をしてゐるあの男は？」  
「あゝ、あれか、馬を高く  
買ったからなんだ」

胃腸病妙藥

昔ハ料理ニ必ズ「シ、茸」ヲ  
用タリ今ハアマリ使ハズ甚  
不都合ノ次第ナリ「シ、茸」  
ヲ煎ジ臥寝前ニ服用スレバ  
胃腸ヲ整ヘ便通正シク氣分  
爽ナリ諸病ヲ未然ニ防グ効  
能アリ人助ノ爲メ廣告ス此  
ノ秋ハ茸類ノ出ル時節ナレ  
バ新葺程効能著シ各家庭ニ  
テ百匁位ツ、常備シ置ク事  
肝要ナリ

毎度御ひいさ

有難う御座います

江戸前都壽し始めました。

是非御試食を願います……

大蒲焼 仕出し部  
折壽司 詰

田町魚 榮  
電話四二四番

旭硝子株式會社製品 板ガラス

赤菱印 硝子食器  
硝子壺  
其他各種

松崎硝子製作所

平町新川町(電話一四二番)  
支工場 仙臺市榮町(電話五九七番)

聲書

拜啓時下初冬の之候貴下益々御健勝之段奉賀候  
陳者今同老生警城共濟會會長辭任に付き會員各位及地  
方辱知諸君より御下間に接し實に感謝に不堪候ゆゑ  
甚だ延引ながら辭表の内容に付き御報告申上度候  
抑も警城共濟會は會員相互の救療並に窮民の施療を  
本願とする共存共榮の社會的精神に立脚し去る大正  
十二年の創立に係り會員各位の零碎なる據金によつ  
て當附屬病院を建設し爾來専ら本會創立の趣旨に則  
り鋭意苦心經營の結果近年漸く本病院の内容充實し  
其存在を一般社會に認めらるゝに至りたることは寔  
に各位と共に欣幸とする所に御座候  
願れば老生警城共濟會の創立を企圖し部下各地に行  
脚し會員各位に懇へて基金を仰ぎ當附屬病院の建設  
を見たるも當時會員の據金は該事業計畫の半ばにも  
達せず故に工事費の支拂醫療器具の設備其他業務の  
遂行上に就ては並々ならぬ苦心を要し候折柄 恩賜  
團濟生會理事長故二條公爵閣下(御在世中)内務省衛  
生局高野六郎博士前院長助川喜四郎博士及時事新報  
社北澤樂天書伯等と共に本會病院發達の爲めに再三  
熱烈なる御講演被下殊に二條公爵閣下には本會病院の  
趣旨及情狀を酌量御同情賜はり恩賜團濟生會救療部  
より醫療器具寢具其他特別に交與せられ將又本會病  
院創立當時より各大學醫學部各教授其他知名の博士  
等より特に御配慮に與りたることは本會病院の最も  
僥倖とする次第にして且つ光榮として終始忘るべか  
らざる儀に有之候  
而して會員各位の信任を得て本會病院主管の要職を  
汚し來りたる淺學非才の老生は兎も角今日まで大過  
なきことを得たるは之れ偏に會員各位の御同情ある  
御指導と御鞭撻の賜にして老生の唯々感謝措く能は  
ざる次第に御座候  
然るに輓近老生の健康は此の繁務に堪へ難きを以て  
暫く休養の暇を乞ふべく這般の役員會に諮りたるに  
幸ひにも承認を得るに至り後任會長井上茂作君に事  
務一切を引續ぎ將來新會長に俟つて爾々本會病院の  
完成を貫徹することに致候  
御承知の如く井上新會長は人物手腕共に練達の士に  
して其主宰に係る本會病院の將來は寔に期待するに  
餘りあり老生が畢生の事業として渾身を捧げ來りた  
る本會の後事を托すに復と得難き適材と信じ各位は  
井上新會長を推戴し協力以て本會病院の達成に御盡  
瘁あらんとを切に念願する次第に御座候  
承らくの間御懇切なる御指導と御同情に對し酬ゆべ  
き何事をも成し遂げず茲に本會々々長を退くに際し敢  
て各位の御賢察を仰ぎ度乍失禮書中を以て御挨拶旁  
申上度如斯に御座候  
昭和七年十一月  
創業者 賀澤忠治

# 救済金少なく

## 喜榮丸の遺族憤慨

### 他との振合ひがとれぬとして

### 船主へ強硬に談判を持込む

過般の颪風で遂に喜榮丸十

十四名、清正丸七名合計二  
一名の生霊を海魔に奪はれ  
た江名町では罹災者遺族の  
救済に全力を注いで

ゐるが前記喜榮丸の船主黒  
川喜一郎氏は廿五日遭難漁  
夫に對し金三十圓宛の弔慰  
金を贈る事に決定した處同  
時に清正丸船主も罹災者七  
名に對し一名金六十圓宛の  
弔慰金を

贈る旨發表したので  
喜榮丸乗組員の遺族連は清  
正丸罹災者と同額の弔慰金  
が當爲であるとして三十圓  
の弔慰金に不服の向が多く  
一般の輿論も此れを支持し  
てゐるので

町當局 並に漁業組合  
が船主と遺族間に入り調定  
斡旋中であるが圓滿解決ま  
では可成の曲折は免れな

### 遭難遺族の 悲話 唯泣き暮し

屢報過  
般の大  
時化で  
郡内至  
る處に  
幾多の

禍と遭難哀話を残し、  
で最も悲惨を極めたものは

いものと観られてゐる

### 洋食組合役員

平町  
西洋料理屋組合では過般役  
員の改選を行つた結果組合  
長大沼與之吉副組合長今村  
武氏幹事高田久四郎氏と決  
定した

### 教育總會出席

平第  
二小學校にては既報の如く  
来る二十七日双葉郡富岡町  
小學校に於て開れる東部聯  
合教育總會に津田校長及  
び金澤首席荒小松の兩訓導  
が出席すると

## 平町外八ヶ村

### 俵米の品評會

### 來月中旬頃平町に

石城郡農會及び平穀物検査  
所では聯合し來月中旬頃平  
町外飯野、鹿島、草野、高  
久、神谷、好間、小川、赤  
井、等八ヶ村聯合の俵米品  
評會を平町に開催する爲め  
來月三日午前十時より團體  
事務所樓上に於いて打合せ  
會を開くと

### 縣下二等

### 入選兒童

### 火防宣傳作品

既報本月五日行はれた平署  
管内の防火デーに際し同署  
で懸賞募集した小學兒童の

高久海岸に難破乗組全員十  
八名が海底の藻屑と化した  
寶來丸の遭難で船長紋波善  
七(四)次弟太郎(三)末弟  
善吉(三)の三人兄弟が老母  
カネ(五)善七妻ハル(三)長  
女キク(一)次女フデ(三)三  
女キヨ(五)の女子供だけを  
残して海魔の毒瓜にかけら

れた事件の如き痛く各方面  
の同情を惹いて居るが同船  
乗組遭難難夫の一人鈴木傳  
次郎(四)に遺された妻ウメ  
(三)長女イワ(一)養女美代  
(二)次女ユキ(四)秀子(三)  
長男傳(三)次男敏(二)三男  
熊三(六)一家九名は傳次郎  
唯一人の稼ぎ手を失つた

應募作品中左記二名は縣警  
察部で選衡の結果本日縣下  
の二等に入選せる旨通知が  
有つた夏井校尋一箱崎庄平  
四倉校高二岡田優

## 陶酔と緊張

### けふの響女

### 恒例音樂會

### 石城樂壇今秋の

### シーズンを飾る豪華版

石城樂壇の

今秋シーズンを飾るものと  
して各方面から注目される  
縣立磐城高等女學校主催恒  
例の秋季音樂大會は既報の  
通り今廿六日午後一時から  
同校大講堂に於いて盛大に  
開會された。父兄同窓會員  
等聴衆實に六百餘名參會、  
正木校長の開辭に次いで四  
年生長瀬タマエ、鈴木チエ  
子兩嬢のピアノ連奏を始め  
として左記曲目に入つたが

田中教諭のピアノ獨奏「ソ  
ナタ」は滿堂の聴衆を陶酔  
の境に引入れ稀れに見る緊  
張と昂奮の裡に同四時半散  
會した

(ピアノ連奏)ヴェンナマ  
ーチ 四年長瀬タマエ  
鈴木チエ子 (齊唱)勉め  
勵み 一ノ一(二部合唱)

けに其の慘状は全く目も當  
られず况はれた家族等は唯  
泣き暮してゐるのみに附近  
の人々も慰めるすべとな  
く僅に米、味噌等を持寄つ  
て路頭に迷ふ一家九名の生  
命を支へてゐる有様で同町  
當局でも此の救済に腐心し  
てゐる

縣視學が來平 水野  
縣視學は来る二十八日平着  
午前八時三分にて來平第二  
小學校を視察すると

村小學校に於て開催される  
農作物品評會及び兒童成績  
品展覽會に會方を出品すべ  
く係訓導指導の下に練習中  
の行本日出品兒童を左の如  
く決定した

(二年)矢田部富子 青木  
美代子 五十嵐澄子(三  
年)梅津吉子 淺野敬子  
馬目静(四年)高木光子  
鳥海珠 佐藤久子(五年)  
大和田智恵子 石山小夜  
子渡邊昌(六年)松本節子  
氏田ハツ 根本八重(高  
一)玉木静(高二)和田登  
美子 稻邊ユキ

漁港救済の 平町鮮  
應募義捐金 魚商及  
び蒲鉾業者間で募集中の漁  
濱救済義捐金の廿四、廿五  
兩日の應募者は左の如くで  
ある

廿圓石川亭 佐藤三平  
拾五圓増田醫院 共濟病  
院職員一同 關内油店  
拾圓諸橋國松 色川材木  
店 常磐銀行平支店 七  
十七銀行平支店 農工銀  
行平支店 大一屋 佐藤  
鐵工場 木村病院 吉田  
眼科醫院 鈴木自動車店  
酒井亥之次郎 中川材木  
店 石島徳長 吉田喜代  
松 安齊醫院 高久醫院  
清水醫院

平商柔道昇段 既報  
去る十月双葉中學校に於て  
行れた濱三郡柔道有段者審  
査會の結果平商業學校教師  
阿部克英氏は二段、四年藤  
佐忠雄君は初段にそれ夫々  
昇段した

平第一校 平第二  
書方出陳 小學校  
に於ては來月十日より三日間  
飯野村青年團主催の下に同

明日の野球戦 平法  
曹團對全平オールドチーム  
の野球試合は明日午後一時  
より平商グラウンドに於て行  
ふと

### 平町人事

△古鍛冶町三三 當時郡山  
市虎丸町一七六册藤健治  
氏三男宗信  
△一丁目一二 森下民藏氏  
長男庄藏  
△見月町三三 篠山一平氏  
四女エイ子  
△長橋町二〇 八巻榮市氏  
三女利子  
△回死 亡  
△鎌田八小野熊吉 (四二)  
△古鍛冶町三三 會澤丑松  
(六八)

### 美味!

### 芳醇!

# 宗正らひた

山崎合名會社  
電話一〇番

# 割前勘定の事から

## 一人に斬付け

### 生命危篤の重傷を負す

### 家探の揚句と首を揮ふ

### 加害者直ぐ捕る

石城郡植田町台町居住者 工福岡市今泉町生れ大内芳太郎(三)は廿四日夜十一時頃

午後六時より萩野天仙氏宅に於て開催するが兼題は茶花・足袋、冬田であると

朝鮮入營兵の出發 平町大工町愛澤長資方中川正長車にて出發すると

氏は今朝朝鮮咸興歩兵七十四聯隊に入營の爲め来る廿八日午前九時一分平驛發列車にて出發すると

**明日のラジオ**  
廿七日

今晚の部  
後七、三〇 兒童唱歌コンクール 熊本縣北郡社敷小學校 廣島市中島小學校 神戸市兵庫小學校 大阪市高津小學校 名古屋屋山小學校 東京市杉並區杉葉小學校 東京市

女師附屬小學校 仙臺市立町小學校 仙臺市東二番小學校 札幌師範附屬小學校 札幌市大通小學校 各校兒童  
後九、〇〇 連續浪花節  
田宮坊太郎終席早川燕平  
後九、三一 滿洲より「執

今晚も明日も晴  
東の風曇時々小雨模様

報豫氣天

政の御日常に就て(一) 政務中島比多吉  
後九、四〇 全國ニュース  
氣象通報 番組豫告

明日の部  
前九、一〇 養料料理 祭養研究所  
前九、三〇 子供の時間 獨唱と齊唱 山形縣酒田町琢成小學校兒童  
前一〇、〇〇 講演  
後二、二〇 運動競技「慶帝蹴球試合状況」明治神

宮外苑トラックより中繼  
後六、〇〇 子供の時間 少女ラヂオドラマ「落下傘は開いた」BKコードモサークル  
後六、三〇 講演「徵兵制度發布六十週年に際して」宮城縣知事三邊長治  
後七、三〇 講演  
後八、〇〇 ビデオ曲解釋 講座 マキシムシヤビロ 解釋前田三男  
後八、三〇 放送舞臺劇「父歸る」市川猿之助外

## 大敷網に引掛つた 寶來號漁夫の死體

昨廿五日午前十時頃豊岡村大敷網で修理の爲め網揚作業中網底に引かゝつてゐた全身腐爛の男屍体一ヶを

久沖合に漂流してゐるのではないかと觀られ附近消防組員が屍体の捜査を開始した

行方を晦して居た 金槌殴りの犯人が 郷里に立廻つた處を逮捕 昨日平刑務所へ

昨廿五日午前十時頃豊岡村大敷網で修理の爲め網揚作業中網底に引かゝつてゐた全身腐爛の男屍体一ヶを

久沖合に漂流してゐるのではないかと觀られ附近消防組員が屍体の捜査を開始した

行方を晦して居た 金槌殴りの犯人が 郷里に立廻つた處を逮捕 昨日平刑務所へ

昨廿五日午前十時頃豊岡村大敷網で修理の爲め網揚作業中網底に引かゝつてゐた全身腐爛の男屍体一ヶを

久沖合に漂流してゐるのではないかと觀られ附近消防組員が屍体の捜査を開始した

行方を晦して居た 金槌殴りの犯人が 郷里に立廻つた處を逮捕 昨日平刑務所へ

昨廿五日午前十時頃豊岡村大敷網で修理の爲め網揚作業中網底に引かゝつてゐた全身腐爛の男屍体一ヶを

久沖合に漂流してゐるのではないかと觀られ附近消防組員が屍体の捜査を開始した

行方を晦して居た 金槌殴りの犯人が 郷里に立廻つた處を逮捕 昨日平刑務所へ

高月旬例會 高月旬會十二月例會は來月二十日

昨廿五日午前十時頃豊岡村大敷網で修理の爲め網揚作業中網底に引かゝつてゐた全身腐爛の男屍体一ヶを

久沖合に漂流してゐるのではないかと觀られ附近消防組員が屍体の捜査を開始した

行方を晦して居た 金槌殴りの犯人が 郷里に立廻つた處を逮捕 昨日平刑務所へ

## 四歳の幼兒が 燃え木を持出し

石城郡川前村大字下桶賣字萩雜貨商大實仁(平)より廿四日午後五時發火し同一棟を全焼して六時鎮火したが原因は同人の孫政治が飯焚の燃木を持出して物置に置かれた爲めであると

石城郡勿來町大字窪田字大槻百二十五番地農鈴木長二郎(三)及び同町字中島十五番地農安島善一郎(三)の兩名は去る十九日同村字町通地内道路に於て同村榎田四郎と青年團長の事から口論の末頭部其の他數ヶ所を毆打し金治約一週間を要する打撲傷を與へ傷害罪として各料十五圓宛に日本平區裁判所に於て略式命令を以て處分された

## 出水と 悪疫豫防

石城郡好間村衛生實行組合では今回の出水に依る傳染病豫防の爲め講演會を催すべく寄々協議中であると

平職業紹介所報告  
回人を求める方  
尋卒 月十圓位(平町某)  
尋卒 洋裁縫見習 十六才  
高卒 仕着小遣(平町某)  
女中 二十五才 尋卒  
月五圓(平町某)  
兒守 十六才 尋卒 給料面談(平町某)

## 平裁判たより

昨報平町の各浴場にて板の間隙を以て石城郡湯本町大字湯本谷川原敏(三)の窃盜事件は本日午前十一時より平區裁判所に於て竹内判事より懲役一年六ヶ月を言渡された

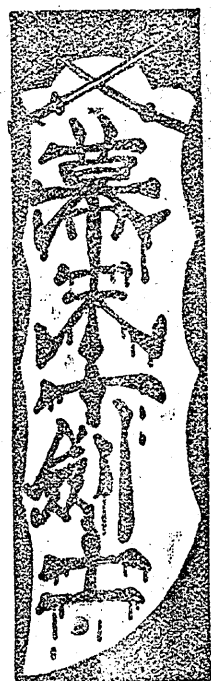
回職を求める方  
△出前持 十八才 尋卒  
給料面談(双葉郡某)  
△雜婦 五十才 尋卒 給料面談(平町某)  
△土工夫 二十九才 尋卒 給料面談(平町某)  
△洋服見習工 十六才 高卒 給料面談(平町某)

**御修繕は**  
技術に絶対自信  
を持つ弊店へ  
ダイヤ堂  
鈴木時計店  
平驛前通り

**市原醫院**  
平町 田町  
電話 一四番

**金銀**  
高價買入致します！





【禁轉載上演及映畫】

悟道軒 圓玉演  
近藤 紫雲畫

第二百九席 平手造酒

柿の根に死骸を埋む

磯右衛門は柿泥棒の襟を

押へて引立て、見るとガラ

リ首をたれて何の答へもな

いこれは氣絶したかと家に

伴れて寝てゐるおしんを呼

び起してこれから柿泥棒の

顔に水を注ぎかけ氣付けを

吞ましたが息は絶えてゐる

磯「これは大變、おしんや

此の柿泥棒は名主様の伴與

之助さんだ」

しん「マア可愛想な事をし

たね、お前さん之れから何

うするの」

磯「何うするものか人を殺

した上は安穩ではいらね

え、夜明けを待つて館山の

御陣屋へ訴へ出て相當なお

處置を受けることにしよう

……」

しん「マアお待ちなさいよ

人殺しをしたにもせよ殺さ

れたものは泥棒だから重い

お咎めを受ける事はありま

すまい」

磯「イヤさうでねえ此の與

之助さんはまだ十二か十三

の子供だ、いたづらしたの

を柿泥棒だと思つて俺が殺

したと斯う役人は思ふであ

らう、さう思はれては輕い

お仕置では済むまい、先づ

遠島か重く行けば打首ハ

る、お前は今の内に故郷の  
江戸へ戻るがよい」  
しん「飛んだ事が出来たね  
あア困つた二一漢運者でも  
磯右衛門に同情してどうし  
てこの災難を遁れたものか  
とデット思案にくれた」



此處まで来ると内から灯が  
漏れたからまだ起きてゐる  
からそれで立寄つたが何を  
考へてゐるだ」  
磯「藤次、大變な事が出来  
た」  
藤「大變とはオイ見貴そこ  
にあるは死骸だな」  
バラリと菰をはねて見て  
ゐた藤次  
磯「それは名主様の伴だ  
……」  
磯「それだから一層氣にか  
ゐる、マア聞いてくれ愚ふ  
云ふわけだ」  
藤「エ、泥棒だと思つて長  
掉で叩き落した」と

折しもガラリと表の戸を  
開いて入り来る者がある磯  
右衛門はそれにあつた菰を  
死骸に結付けて

磯「誰だ」  
藤「俺だ見貴」  
と云つたは弟の藤次  
藤「喜右衛門の所に無盡が  
あつてそれへ行つて歸りだ

磯「その時急所を打つたと  
見へて死んでしまつた」  
藤「われはえらい事をやつ  
たな、そこで見貴はどうす  
る積りだ」  
磯「何うもしねえ館山の御  
陣屋に訴へ出る」  
藤「おしおきを受けるのも  
りかまア待たせ、何とか工

夫をしてこの事の露顯させ  
ぬやうに悠うしよう、海に  
持つて行つて流してしまへ  
沖に出れば鮫の餌食になつ  
て骨も残るまい、與之助さ  
んや名主様にすまねえ事だ  
が脊に腹はかへられねえ、  
苦しい時には鼻でもそげと  
云ふこともある、マア、  
俺にまかして置け」  
それを聞いておしんが  
しん「何うぞ藤次さん良い  
工夫をして磯右衛門さんを  
助けて下さい」  
藤「よし今も言つた通り海  
に流すがよいに知れるや  
うな事はねえ、この死骸は  
俺が捨て、やる」  
と云つて菰包にして藤次  
は出て行つた、おしんに磯  
右衛門は暫く待つて居る、  
するとその包を脊にしたま  
ゝ戻つて来た藤次が  
藤「見貴海へ流すことは出  
ぬねえ潮が干いてゐるから  
十五六丁も干潟に行かぬば  
水のある所は見られねえ、  
それにどうした事か今夜は  
濱に大分人がいる、その人  
達に怪しまれると大變だ、  
それを待つて歸つて来たが  
之はあの柿の木の下へ埋め  
たがよからう、これを知つ  
てゐるはお前と姐さんと俺  
と三人他人でなし夫婦に兄  
弟、夢にもこの事は云ふま  
いさすれば柿の木の下にこ  
の死骸のあることは他には  
ない、なければ知る事もあ  
るまい」  
磯「それもさうだな、では  
藤次あれへ埋めることにし  
よう」  
磯と勤で柿の木の根本を

般一物質

類券債種各

店質井三

岸川目丁四町平電  
番六〇六話電

梅毒 淋病

皮膚病 婦人病 胃性病  
十二指 腸虫病

院醫科腸病 村松  
〇七一話電 町南平

三河産業博覽會 金牌受賞  
昭和産業博覽會  
かまぼこ 製  
お物菜用 平町一丁目  
さつま揚 不味實  
吉原揚 電話一四一番

福引付 吳服大賣出し  
十一月廿五日より十二月一日まで  
昂騰前に仕入れた最安値品と本年最新柄を豊富に取  
揃へ大提供何卒御用命を  
金貳圓御買上毎に福引券  
福引一丸帯 コート 銘仙 座布團(五枚)一空籤  
景品ニニコ(御風呂敷 御手當貴等々)なし  
御婚禮 祝着 豊富  
七五三祝着 記念付 特賣  
〇〇金拾圓以上御買上……合判(三枚壹組)  
〇〇金貳拾圓御買上……キャビネ(ツツ呈上)  
縮緬 友禪 富士絹友禪  
新柄モス友禪 尺三九帯  
御袴地 四ツ身紋付  
お祈記念としえ無料撮影  
撮影は……十二月十二日(但シ福引は  
付キマセン)

貸家 廣告  
平驛前目抜の場所  
三階建一棟七十坪  
家賃其他委細面談  
平町五丁 吉田屋染物店方吉野へ